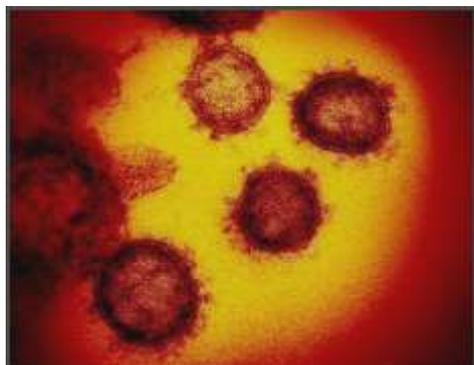


## 新型コロナの変異株 3種類を沖縄で初確認 感染力強い系統 県「ワクチン早めに接種して」

6/3 沖縄タイムス

沖縄県は2日、新型コロナウイルスのオミクロン株で、新たに XBB 系統の3種類の変異株が県内で初確認されたと発表した。県によると同系統の変異株は感染力は強いが、重症化の傾向は見られないという。担当者は「ワクチン効果が期待できるため、早めの接種を検討してほしい」と呼びかけた。



新たに確認された変異株は「XBB・1・16」「XBB・1・9・2」「XBB・2・3」の3種類。県衛生環境研究所が5月1～17日に採取した34検体、同月9～24日の85検体を調べて判明した。

県ワクチン・検査推進課の平良勝也課長は「5月の大型連休による人の移動で県外から持ち込まれた可能性が高い。変異株と感染拡大の関連性ははっきりしておらず、今後の動向を注視していく」と説明した。

入院患者の増加に伴い、病床確保の指標である「医療フェーズ」を宮古地域で2から3Aへ、八重山で1から3Aへそれぞれ引き上げたことも発表した。病床確保数は宮古で17床から21床、八重山は7床から21床となる。(社会部・下里潤)

## 5類移行でも高い感染力「まだ普通の病気になっていない」 尾身茂コロナ分科会長、沖縄「拡大傾向に入っている」



6/1 沖縄タイムス

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会長で公益財団法人「結核予防会」の尾身茂理事長の講演会(主催・沖縄県結核予防婦人連絡協議会)が27日、浦添市のアイム・ユニバースてだこホールであった。県内の新型コロナの感染状況は「拡大傾向に入っている」と指摘。感染症法上の位置付けが5類へ移行しても高い感染力があることから、「まだ完全に普通の病気にはなっていない」と警鐘を鳴らした。

沖縄コロナ感染 定点当たり 10.35人、前週から微減 54医療機関で559人【5月22～28日】

尾身理事長はコロナ禍の約3年間を振り返り、人口10万人当たりの国内の死亡者数は海外と比べて低く抑えられた一方、緊急事態宣言などで社会経済活動や教育に大きな負担をかけたと指摘。医療逼迫(ひっばく)やデジタル化の遅れによる不十分な情報共有などの課題も示した。

その上で「問題点を検証し、次のパンデミック(世界的大流行)が起きた時、効果的な対策を打つことが大切だ」と強調。今後の懸念として若者のワクチン接種が低いことを挙げ、「致死率は低くなっても、それを上回る感染者数が出ている。ゼロにはならない病気だ」と説明した。(社会部・下里潤)